

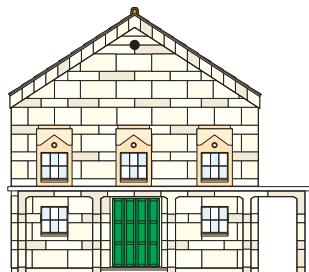
Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2019-07-15

APM news 215

秋山孝ポスター美術館 長岡

国の登録有形文化財・長岡市都市景観賞受賞・金庫扉と雁木のある美術館



〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8
TEL 0258-39-1233

第45回美術館大学 5月11日(土)pm3:00~4:30 / 参加者:30名 / 講師:秋山孝
「秋山孝の神秘『考える技術』『表現する技術』について」



秋山孝の表現の秘密を研究するシリーズ「秋山孝の神秘」の第5弾である。今回のテーマは「『考える技術』『表現する技術』」だ。創作をする上で要するこの2つの技術について考察した。秋山は今回のテーマについて研究する中で、この2つの技術は根本的に全く異なるものであり、創作する上で分けて考えなければならないことであることにまず気がついた。その認識の有無が結果を大きく左右するのである。秋山は、それまでの自身の創作もそれを混同していたと反省し、今回の美術館大学ではこの2つの技術を検証するという視点から自身の作品を振り返り、考察を試みる内容となった。

まずは「技術」という言葉の意味について改めて認識することから始める必要がある。

「技術」とは、

- ①技術とは科学の原理によって生産あるいは組織すること。
- ②技術とはtechnologyである。
- ③技術とは物事を巧みに行うわざである。

「技術」という言葉はこの3つの意味を有し、物事の原理をきちんと理解し、美しく且つうまく結果に辿り着く術が技術であると確認した。

そして、「考える技術」「表現する技術」にはそれぞれ具体的にさまざまな技術が含まれる。

例えば、「考える技術」には「発信する技術」、「発想する技術」、「時代を見る技術」、「哲学する技術」、「判断する技術」……。

「表現する技術」には「描く表現」、「言葉のない表現」、「模型による間接的な表現」、「意見を述べる表現」、「コミュニケーション表現」……。

私達はこれらのことと自然とできていると思っているかもしれないが、じつはそれには技術を要し、できていると錯覚しているということに気がつかなければならない。(たかだみつみ・APM学芸員)【▶次号へつづく】